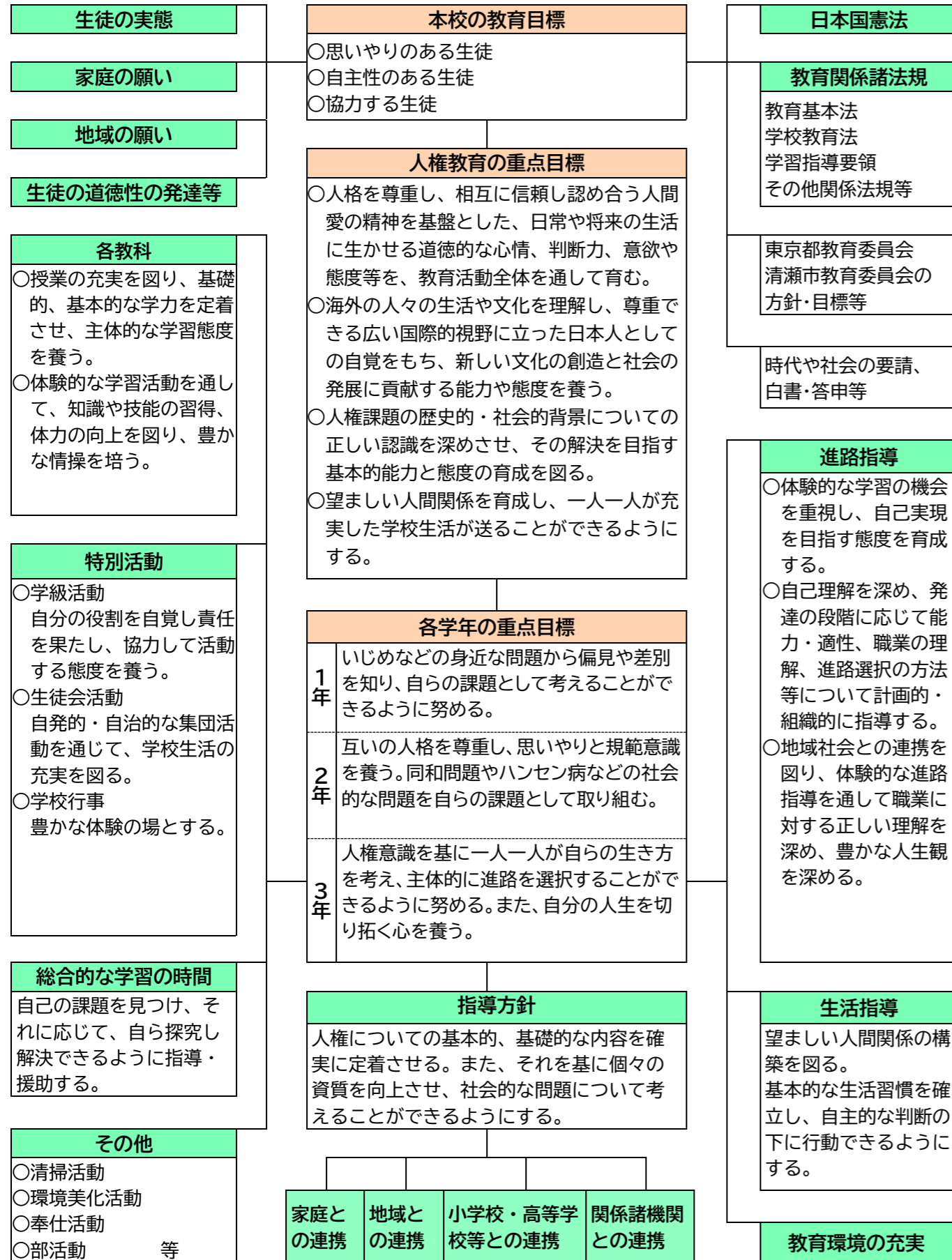


令和2年度 清瀬市立清瀬第三中学校 人権教育全体計画



【研究主題】

学校、家庭、地域が協働して進める人権教育

～自分の大切さとともに他の人の大切さを認める生徒を育成するための日常の指導～



はじめに

清瀬市立清瀬第三中学校長 金井 誠

南に見える雑木林、北に広がるニンジン畑、緑の芝生、賑やかな生徒の音が響いている…、それが本校の本来の姿です。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年度は多くの行事を取りやめたり、縮小したりする等、学校内で生徒の音が響く時間が短くなりました。やりたいのにやれなかったこと、学ばせたいのに学ばせられなかったこと、できなかったことがたくさんあった1年間でした。そのような中でも多くの方の御協力をいただきながら、いくつもの人権課題について貴重な学びの場、体験の場を設けることができました。一つ一つの小さな積み重ねによって、人権尊重の理念である「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」に、取り組むことができました。小さな小さな一歩ですが、ここから先、生徒から家庭に、そして地域に、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」ことを広めていくのが今後の本校の使命です。引き続きの御支援、よろしくお願いいたします。

清瀬市立清瀬第三中学校

〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘1丁目262番

電話 042(493)6313

ホームページ <http://www.kiyose.ed.jp/kiyosedaisantyuugakkou/index.html>

メールアドレス [kiyo3-jt@kiyose.ed.jp](mailto:kiyo3-jt@kiyose.ed.jp)

## 1 研究主題

### 学校、家庭、地域が協働して進める人権教育

～自分の大切さとともに他の人の大切さを認める生徒を育成するための日常の指導～

## 2 主題設定の理由

生徒は多くの時間を家庭や地域社会において過ごしている。学校での学習を肯定的に受容するような家庭や地域の基盤づくりが大切であり、人権教育に対する保護者等の理解を促進することが求められている。そこで、人権教育における学校、家庭、地域の連携・協働を進めるため、日常の教科等の指導を要した生徒の人権意識を高める学校の取組を広く発信していきたいと考えた。

### 令和2年度（1年次）の研究の進め方

#### 1 年間指導計画に基づいて実施した、各授業や諸活動での人権教育の実践報告を行う。

- ① 各教科
- ② 特別の教科 道徳
- ③ 総合的な学習の時間（キャリア学習、地域学習、修学旅行と関連させた学習、進路学習など）
- ④ 特別活動（地域清掃、ボランティア参加、夜空に星を輝かせようプロジェクト、あいさつ運動など）
- ⑤ その他（給食、清掃指導、部活動など）  
⇒ 簡単な統一レポート形式を作り、それに実践をまとめていく。  
レポートを集約し、まとめ、共通理解を図る。

#### 2 DVD視聴後に生徒が書いた感想などの記述から、以下の点を分析する。

- 「人権」についてどう捉えたか
  - 生徒が人権意識を高めるために必要な指導（DVD資料：「めぐみ」等を活用）
- 3 生徒、保護者へ人権調査アンケートを実施（事前・事後）して、その結果を分析する。
  - 4 保護者や地域の方に参加を促す。

「講師を招いての講演会」や「地域清掃」の実施の際に、保護者や地域の人々の参加を促すことで、家庭・地域との連携を推進する方法を考える。

#### 5 次年度の新しい取組を考える。

例：「自他の尊重」について深める、「人権週間」の実施、「清瀬三中人権宣言」など

### 令和2年度（1年次）の日常の教科等の指導における取組

#### 人権課題「障害者」【1学年】

○特別の教科 道徳 主題名「社会の在り方」（C 公正、公平、社会正義）

<本時のねらい>

社会の在り方について関心を向け、身近にある偏見や差別に気づき、偏見や差別をなくそうとする態度を養う。

<人権教育の視点>

車いすで活動するお笑い芸人のホーキング青山氏をお招きし、障害のある方との関わり方について御自身の体験を基に講演していただき、障害のある方の心情や具体的な関わり方について考えることを通して偏見や差別に気付かせ、障害者理解を主体的に進めていこうとする意欲や態度を育む。

#### 人権課題「外国人」に関わる取組【2学年】

○保健体育科 単元名「創作ダンス」

<単元の目標>

様々なイメージを元に創作ダンスを作ることを通して、ダンスについての理解を深め自己を表現する。

<人権教育の視点>

ニュージーランド人の現役ラグビー選手の講師からマオリ族の伝統舞踊「ハカ」を学び、体験・交流することを通して、「ハカ」に込められた思いや、自分に自信や誇りをもって生きることの素晴らしさに触れ、外国人や海外の文化を尊重する態度を育む。



講師との交流の中で、互いの文化を尊重する態度を身に付ける取組となりました。

#### 人権課題「障害者」に関わる取組【2学年】

○総合的な学習の時間 単元名「パラリンピックを知ろう」

<単元の目標>

オリンピックを契機にパラリンピックについて学び、パラリンピックの意義を知るとともに、様々な障害のある方との共生する社会づくりに主体的に取り組む意欲や態度を育む。

<人権教育の視点>

パラリンピックについて調べ、発表することを通して、パラリンピックや障害者スポーツの意義を理解しようとする意欲と態度を育み、多様性を尊重する人権感覚を育てる。

#### 人権課題レポート作成と発表【3学年】

○総合的な学習の時間 単元名「磨こう！私たちの人権感覚」

<単元の目標>

様々な人権課題がある中で、生徒がそれぞれテーマを見付け、調べ学習によって理解を深める。そして、発表し合うことで人権課題の共有を図り、学年の人権感覚を高める。

<人権教育の視点>

生徒一人一人が人権に関する課題を設定し調べ、プレゼンテーションソフトでまとめ、発表することを通して、人権課題に興味をもち、知識的側面について学ぶことで、人権が尊重される社会づくりに主体的に取り組む意欲や態度を育む。



個々に調べた人権課題を発表、共有することで様々な人権課題の理解を深め、人権感覚を高めることができました。

#### 人権課題「性同一性障害者」【3学年】

○社会科 単元名「人間の尊重と基本的人権」

<単元の目標>

人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。

<人権教育の視点>

性同一性障害についての理解を深めるとともに、偏見や差別について考えさせる学習を通して、人権問題を主体的に解決していこうとする意欲や態度を育む。



女子プロレスラーの朱崇花さんをお招きし、性差別の実態や御自身の体験等を質問形式でお答えいただきました。

#### 人権課題「北朝鮮による拉致問題」【全学年】

○特別の教科 道徳 主題名「かけがえのない命」（D 生命の尊さ）

<本時のねらい>

拉致問題の概要を知り、拉致被害者と被害者家族の心情から、我が子に対する親の思い（大切に育まれてきた命であること）に気づき、自分と他人、それぞれの生命の尊さを考えさせる契機とする。

<人権教育の視点>

拉致は重大な人権侵害であるという事実を拉致被害者家族の現状から知り、その悲しみや苦しみに共感させることを通して、人権問題を主体的に解決していこうとする意欲や態度を育む。



DVD「めぐみ」の視聴と、立川市立立川第七中学校の佐藤佐知典先生による拉致問題に関する講演を聞きました。

他にも、各教科等の中で人権を意識した取組を行いました。また、人権に関するアンケートを生徒・保護者に実施し、結果の分析から研究の取り組み方を見直し、学校だよりやホームページ等で発信するなど、感染症対策を講じながら家庭や地域へ理解の促進を図りました。

### 2年次に向けた今後の取組

今年度の研究を踏まえ、7月と2月に行った生徒アンケートを参考にしながら、次年度の重点課題を絞ります。特に自他を尊重する視点での人権教育について研究を深めていきたいと考えています。